

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	立正大学
設置者名	学校法人立正大学学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	全学 共通 科目	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数			省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難	
				学部 等 共通 科目	教養 科目	専門 科目			合計
仏教学部	宗学科	夜・通信	0	0	0	14	14	13	
	仏教学科	夜・通信			0	14	14	13	
文学部	哲学科	夜・通信	0	10	4	0	14	13	
	史学科	夜・通信			4	0	14	13	
	社会学科	夜・通信			4	0	14	13	
	文学科 日本語日本文学 専攻コース	夜・通信			4	0	14	13	
	文学科 英語英米文学 専攻コース	夜・通信			4	0	14	13	
経済学部	経済学科	夜・通信	0	0	4	10	14	13	
経営学部	経営学科	夜・通信	0	0	0	14	14	13	
法学部	法学科	夜・通信	0	0	0	26	26	13	
社会福祉学部	社会福祉学科	夜・通信	0	0	0	14	14	13	
	子ども教育福祉学 科	夜・通信			2	0	11	13	13
地球環境科学部	環境システム学科	夜・通信	0	0	4	10	14	13	
	地理学科	夜・通信			6	10	16	13	

心理学部	臨床心理学科	夜・通信	0	2	0	12	14	13	
	対人・社会心理学科	夜・通信		4	0	10	14	13	
データサイエンス学部	データサイエンス学科	夜・通信	2	0	0	20	22	13	
(備考) ■仏教学部 宗学科：1～3年生については新課程、4年生については旧課程で計上。 仏教学科：1～3年生については新課程、4年生については旧課程で計上。 ■経営学部 経営学科：1年生については新課程、2～4年生については旧課程で計上。									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学公式ホームページにて公表している。

https://www.ris.ac.jp/introduction/idea_purpose/educational_idea/l10kip000002vfv3.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	立正大学
設置者名	学校法人立正大学学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学公式ホームページにて公表している。
https://www.ris.ac.jp/rissho_school/release_information/basic_info/1_03.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社代表取締役社長	2021.4.1～ 2024.3.31	組織運営体制・財政 基盤へのチェック 機能
非常勤	株式会社代表取締役社長	2021.4.1～ 2024.3.31	組織運営体制への チェック機能・地方 自治体との連携等
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	立正大学
設置者名	学校法人立正大学学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目における授業計画の作成にあたっては、全学的に項目を統一し、シラバス作成ガイドラインに沿って作成している。シラバス作成ガイドラインは、全学の委員会である全学教育推進センター運営委員会において毎年見直し、必要に応じた改訂を行っている。授業計画の項目は、授業の目的、到達目標、授業外学修内容、授業計画、成績評価の方法、フィードバックの内容、教科書・指定図書・参考書、教員からのお知らせ、オフィスアワーとしている。また、授業担当者の作成後に、第三者におけるシラバスチェックを行っている。</p> <p>シラバスの作成時期は、例年、前年度の12月末に作成ガイドラインを添付した上で作成依頼を行い、1月末を提出締め切り。その後、シラバス第三者チェック、修正等を行い、3月上旬にWEBにて公開、あわせて4月のガイダンス時に学生には冊子を配付している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>大学公式ホームページにて公表している。</p> <p>https://portal.ris.ac.jp/campusweb/slbbsskgr.do</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバスであらかじめ示した成績評価の方法に基づき、定期試験、レポート、授業内評価、平素の取組等を総合的に勘案し評価を実施している。</p> <p>毎年度、教員へ配付している「授業支援ハンドブック」において、成績評価、GPAについての説明を行うとともに、学内規程で定められた成績評価の証憑資料の保管期限についても周知をしている。また、成績を学生に開示した後、学生からの成績調査確認申請期間を設けている。この制度の目的は、公式で統一された手続きによる問い合わせを可能にすることで、成績評価に対する透明性と公平性を高めることとしている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>科目ごとの成績(評点)に対し、GP(Grade Point)を付与し単位数を掛け、その総和を履修登録単位数で割ることで、GPAを算出している。</p> <p>学期ごと、年度ごとのGPAを学生へ通知しており、その数値変化により、学生が自らの学修成果の達成状況を修得単位数とあわせて客観的に把握できるようにしている。また、学期ごとに学科・学年別のGPA分布図を公開しており、学生は自身のGPAを分布図とあわせて確認することができる。</p> <p>GPAの具体的な算出方法は次のとおりである。</p> $\text{GPA} = \frac{\text{「履修登録した授業科目の単位数」} \times \text{「科目のGP※」の総和}}{\text{「履修登録した授業科目の単位数」の合計}}$ <p>※GP = (評点 - 55) ÷ 10</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>大学公式ホームページにて公表している。 https://www.ris.ac.jp/introduction/idea_purpose/assessment_policy/index.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

全学、および各学部・学科のディプロマ・ポリシーに基づき、単位修得状況、各科目の成績、卒業論文や卒業研究の成績を踏まえ、卒業を認定している。全学のディプロマ・ポリシーは、以下のとおりである。

立正大学は、各学部学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。

< 関心・意欲・態度 >

- ・建学の精神を貴ぶ姿勢を有している。
- ・モラル・学識と専門性・能力を掛け合わせながら社会に貢献しようとする公共的使命を持ち、生涯にわたって学び成長し続ける豊かな人間性と自律性を身につけている。
- ・人や文化の多様性を受容し、他者と協働して新しい価値を創造しようとする態度を身につけている。
- ・人間・社会・地球と積極的に関わり、主体的に行動しようとする視点を身につけている。

< 思考・判断・表現 >

- ・人間・社会・地球の諸課題を発見し、その機序を探求しようとする思考力を有している。
- ・人間・社会・地球の諸課題を解決するために、論理的・批判的に判断することができる。
- ・自らの考えを他者に理解されやすいように表現することができる。
- ・生涯を見通しながら現在の学びを計画するキャリア形成力を身につけている。

< 知識・理解 >

- ・所属学部学科の専門分野についての全般的な知識を身につけ、理解している。
- ・所属学部学科の特定の専門分野についての応用的な知識を身につけ、理解している。
- ・人間・社会・地球に関する基礎的な知識を身につけ、理解している。
- ・外国語運用能力およびその背景にある当該外国の文化・歴史等に関する知識を身につけ、理解している。

< 技能 >

- ・日本語・外国語の表現力やメディアリテラシー・情報倫理を含む、コミュニケーション能力を身につけている。
- ・修得した知識・技能・態度等を統合化し、活用する力を身につけている。
- ・複合的・多面的な領域への学修経験がある。
- ・課題を発見し、探究し、解決し、表現する力を身につけている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学公式ホームページにて公表している。
https://www.ris.ac.jp/introduction/idea_purpose/educational_idea/l10kip000002vfv3.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	立正大学
設置者名	学校法人立正大学学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページにて公表 https://www.ris.ac.jp/rissho_school/about_school/financial_affairs/index.html ※決算書ページ内「計算書類」にて公表
収支計算書又は損益計算書	大学ホームページにて公表 https://www.ris.ac.jp/rissho_school/about_school/financial_affairs/index.html ※決算書ページ内「計算書類」にて公表
財産目録	大学ホームページにて公表 https://www.ris.ac.jp/rissho_school/about_school/financial_affairs/index.html ※決算書ページにて公表
事業報告書	大学ホームページにて公表 https://www.ris.ac.jp/rissho_school/about_school/plan_report/business_reporting.html
監事による監査報告(書)	大学ホームページにて公表 https://www.ris.ac.jp/rissho_school/about_school/financial_affairs/index.html ※決算書ページ内「計算書類」にて公表

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画書)	対象年度:2022年度)
公表方法:大学ホームページにて公表 https://www.ris.ac.jp/rissho_school/about_school/plan_report/business_plan.html	
中長期計画(名称:立正大学学園 第1次中期計画(RISSHO VISION 150)	対象年度:2018~2022年度)
公表方法:大学ホームページにて公表 https://www.ris.ac.jp/vision150/	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:大学ホームページにて公表 https://www.ris.ac.jp/introduction/inspection_evaluation/detailed_rules.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:外部機関ホームページにて公表 https://www.juaa.or.jp/search/detail.php?id=346
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 仏教学部宗学科
教育研究上の目的（公表方法：学則にて公表） https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/school_regulations/index.html
（概要） 宗学科は、日蓮聖人の三大誓願をもととする立正精神に立脚して、自らの向上に努め、他者への慈しみの心を有し、菩薩の自覚をもって、広く社会に貢献できる人材を養成することおよびその他の必要な教育研究を行うことを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/buddhism/policies.html
（概要） 宗学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与する。 ①他者に対する慈しみと敬いの心を持って接することができ、幅広い教養を身につけるとともに、現代社会が直面する諸問題に関心を持ち、また日蓮聖人の思想と行動や日本仏教の思想を学び、使命感をもって社会の諸問題に対応することができる者（関心・意欲・態度）。②法華経の精神に基づき、自身を見つめて人間としての生き方について思考・判断ができ、自らの考えを文章や口頭を通じて表現することができる者（思考・判断・表現）。③日蓮聖人の宗教思想と社会的実践についての知識や、日本仏教を基礎とした日本の思想・歴史・文化についての知識を身につけている者（知識・理解）。④法華仏教や日本仏教に関する資料を読みとることができる者（技能）。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/buddhism/policies.html
（概要） 宗学科は、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を組み合わせた授業を開講する。特に、人間の生き方と現代社会の諸問題、歴史学的な探求とその解明方法、精神文化の諸相と宗教的価値観などについて広く深く学修し、コミュニケーション能力を高めて他者理解をはかり、社会的諸課題を解決する能力を養成し、宗学を総合的に体得することができるように編成する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/buddhism/policies.html
（概要） 仏教学部では、学部の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待する。 ・仏教の教え、仏教史、仏教文化・芸術などに深い関心をもっている者。 ・正義を尊ぶ高い倫理観を持ち、仏教を通じて自己形成と社会貢献を志している者。 ・学問に対する向上的意志を有している者。 なお 2020 年度入学生より、仏教学部では、仏教学科（思想・歴史コース／文化・芸術コース）・宗学科（法華仏教コース／日本仏教コース）の入学者を学部として一律に選抜する方式をとっている。
学部等名 仏教学部仏教学科
教育研究上の目的（公表方法：学則にて公表） https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/school_regulations/index.html

<p>(概要)</p> <p>仏教学科は、世界に伝播した仏教の思想と歴史およびそれに関連する文化と芸術について多様な視点から学修研究を行うことを通じて、現代人として有すべき全人的教養と国際的視野をそなえ広く社会に貢献しうる人材を養成することおよびその他の必要な教育研究を行うことを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表）</p> <p>https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/buddhism/policies.html</p>
<p>(概要)</p> <p>仏教学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与する。</p> <p>①仏教に関する諸事象について、創意をもって学修することができ、文化・社会の課題に積極的に関与し、自主的に問題解決に向けて取り組むことができ、自らのあり方・生き方を正視し、向上させようと努力することができる者（関心・意欲・態度）。②仏教的なものの見方、歴史的なものの見方ができ、世界の多様な文化や芸術を理解し表現することができる者（思考・判断・表現）。③仏教を文化・社会・自然と関係付けて理解する幅広い教養を身につけており、また思想・歴史あるいは文化・芸術を中心とする仏教学の基礎的専門知識を身につけている者（知識・理解）。④仏教あるいは仏教文化・芸術に関する資料を読みとることができる者（技能）。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表）</p> <p>https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/buddhism/policies.html</p>
<p>(概要)</p> <p>仏教学科は、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を組み合わせた授業を開講する。特に、基礎・演習系、言語・スキル系、基礎・基幹系、言語系、思想・思想史系、文化史・文化財系、芸術実習系、宗教学系等といった分類に基づく体系性を有するカリキュラムを編成する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表）</p> <p>https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/buddhism/policies.html</p>
<p>(概要)</p> <p>仏教学部では、学部の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教の教え、仏教史、仏教文化・芸術などに深い関心をもっている者。 ・ 正義を尊ぶ高い倫理観を持ち、仏教を通じて自己形成と社会貢献を志している者。 ・ 学問に対する向上的意志を有している者。 <p>なお2020年度入学生より、仏教学部では、仏教学科（思想・歴史コース／文化・芸術コース）・宗学科（法華仏教コース／日本仏教コース）の入学者を学部として一律に選抜する方式をとっている。</p>
<p>学部等名 文学部哲学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：学則にて公表）</p> <p>https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/school_regulations/index.html</p>
<p>(概要)</p> <p>文学部哲学科は、学部の教育目的に則り、哲学の専門知識を学び、現代社会の問題を見極め、自ら考え対処する力を備えた個人を育成することおよびそのために必要な教育研究を行うことを、人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的として定めています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表）</p> <p>https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/letter/policies.html</p>
<p>(概要)</p> <p>文学部哲学科の課程を修め、所定の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。（詳細は添付資料参照）</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/letter/policies.html</p>
<p>（概要） 文学部哲学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。（詳細は添付資料参照）</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/letter/policies.html</p>
<p>（概要） 文学部哲学科では、学部学科の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待します。 ・哲学の諸領域について幅広い興味と関心を持ち、積極的に学び探求しようとする意欲をもっている者。 ・自ら問題を発見し、考え、他人と積極的にコミュニケーションを図る意欲をもっている者。 （詳細は添付資料参照）</p>

<p>学部等名 文学部史学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：学則にて公表） https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/school_regulations/index.html</p>
<p>（概要） 文学部史学科は、学部の教育目的に則り、史学の専門知識を学ぶとともに、過去を客観的に判断する視点を持ち、有用な様々な知見によって社会に貢献できる個人を育成することおよびそのために必要な教育研究を行うことを、人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的として定めています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/letter/policies.html</p>
<p>（概要） 文学部史学科の課程を修め、所定の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。 （詳細は添付資料参照）</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/letter/policies.html</p>
<p>（概要） 文学部史学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。（詳細は添付資料参照）</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/letter/policies.html</p>
<p>（概要） 文学部史学科では、学科の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待します。 ・歴史が好きだけでなく、過去を知るために自ら足を使って史料を探し、遺跡を歩き、自らの目で歴史を捉え考えることができる者。 ・様々な異なる過去の捉え方を比較し、史料から独自の考え方を探り出す意欲をもっている者。 ・自らの調べたいことを読書を通じて導き出す意欲をもっている者。 （詳細は添付資料参照）</p>

学部等名 文学部社会学科
教育研究上の目的（公表方法：学則にて公表） https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/school_regulations/index.html
（概要） 文学部社会学科は、学部の教育目的に則り、社会学の専門知識を学ぶとともに、複雑化した現代社会を分析できる能力を備えた個人を育成することおよびそのために必要な教育研究を行うことを、人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的として定めています。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/letter/policies.html
（概要） 文学部社会学科の課程を修め、所定の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。（詳細は添付資料参照）
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/letter/policies.html
（概要） 文学部社会学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。（詳細は添付資料参照）
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/letter/policies.html
（概要） 文学部社会学科では、学科の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待します。 ・人と人との相互行為、社会関係、社会的ネットワーク、社会制度や社会のしくみ、社会問題、グローバルな地域関係や国際関係、文化やエスニシティなどに興味・関心を持っている者。 ・高等学校卒業程度の広い基礎的な知識と理解力を前提として、より深く専門的に現代社会のダイナミックな動きと多様な社会問題の発生のメカニズムについて学ぶ意欲を持ち、講義等を受動的に聴講するだけでなく主体的に自分の頭で考え行動する姿勢を身につけている者。 （詳細は添付資料参照）

学部等名 文学部文学科日本語日本文学専攻コース
教育研究上の目的（公表方法：学則にて公表） https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/school_regulations/index.html
（概要） 文学部文学科日本語日本文学専攻コースは、学部の教育目的に則り、日本文学の伝統や文化を継承するとともに、世界の中の日本語・日本文学という視座のもとに、新しい時代を切り拓く個人を育成することおよびそのために必要な教育研究を行うことを、人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的として定めています。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/letter/policies.html
（概要） 文学部文学科日本語日本文学専攻コースの課程を修め、所定の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。（詳細は添付資料参照）

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/letter/policies.html</p>
<p>（概要） 文学部文学科日本語日本文学専攻コースは、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。（詳細は添付資料参照）</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/letter/policies.html</p>
<p>（概要） 文学部文学科日本語日本文学専攻コースでは、学科の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学作品や文化事象に深い興味を抱いている者、ことばに対して強い好奇心を持っている者、外国の文学・文化と日本との比較に強い興味を抱いている者、または歴史や社会を背景とした「人間」に対して深い興味をもっている者。 ・国語・書道教員免許、図書館司書、学芸員などの諸資格の取得や、小説を書きたいなど、明確に入学目的をもっている者。 ・本コースで学んだ力で社会に貢献していく意欲をもっている者。 <p>（詳細は添付資料参照）</p>

<p>学部等名 文学部文学科英語英米文学専攻コース</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：学則にて公表） https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/school_regulations/index.html</p>
<p>（概要） 文学部文学科英語英米文学専攻コースは、学部の教育目的に則り、英米文学の専門知識を学ぶとともに、英語を通じて国際社会に貢献できる個人を育成することおよびそのために必要な教育研究を行うことを、人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的として定めています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/letter/policies.html</p>
<p>（概要） 文学部文学科英語英米文学専攻コースの課程を修め、所定の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。（詳細は添付資料参照）</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/letter/policies.html</p>
<p>（概要） 文学部文学科英語英米文学専攻コースは、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。（詳細は添付資料参照）</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/letter/policies.html</p>

<p>(概要)</p> <p>文学部文学科英語英米文学専攻コースでは、学科の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語コミュニケーションや英米文学、英語学、英語圏の文化に興味と関心を持ち、それらを幅広く学ぶ意欲をもっている者。 ・国際社会で活躍するための英語コミュニケーション能力、異文化に対する理解、広い視野の獲得を目指している者。 ・明確な目的意識を持ち、自ら積極的に学ぶ意欲をもっている者。 <p>(詳細は添付資料参照)</p>

<p>学部等名 経済学部経済学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：学則にて公表)</p> <p>https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/school_regulations/index.html</p>
<p>(概要)</p> <p>経済学部は、複雑で多様な現代の経済社会の構造およびその変動要因を理解するとともに、豊かな教養を背景として、自立的な思考力と主体的な行動力をもって課題の発見と解決に意欲的に取り組むことのできる有為な人材を養成することおよびそのために必要な教育研究を行うことを、人材養成に関する目的、その他の教育研究上の目的とする。(詳細は添付資料参照)</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：大学ホームページにて公表)</p> <p>https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/economics/policies.html</p>
<p>(概要)</p> <p>経済学部経済学科の課程を修め、所定の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。(詳細は添付資料参照)</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：大学ホームページにて公表)</p> <p>https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/economics/policies.html</p>
<p>(概要)</p> <p>経済学部経済学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。(詳細は添付資料参照)</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：大学ホームページにて公表)</p> <p>https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/economics/policies.html</p>
<p>(概要)</p> <p>経済学部経済学科では、学部学科の教育目標に共感し、経済学科での学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い視野と専門的学識を身につけ、変化し多様化する社会の課題を把握して、協働性を持って社会に貢献する意欲を持っている者。 ・経済および経済学に対する強い知的関心と学修意欲を持ち、自分の考えを他者に伝えることができる者。 ・所定の経済学の専門的知識・教養の修得に必要な基礎学力を有している者。 <p>(詳細は添付資料参照)</p>

<p>学部等名 経営学部経営学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：学則にて公表)</p>

https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/school_regulations/index.html
<p>(概要)</p> <p>経営学部は、経営学に関する深い専門領域の研究を通じて、産業、社会ひいては人類に貢献する「心豊かな産業人」を養成することおよびそのために必要な教育研究を行うことを、人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表）</p> <p>https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/ba/policies.html</p>
<p>(概要)</p> <p>経営学部経営学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。（詳細は添付資料参照）</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表）</p> <p>https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/ba/policies.html</p>
<p>(概要)</p> <p>経営学部経営学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い視野の形成を促し、「心豊かな産業人」育成のために、経営学の基盤となる社会科学系の諸科目に加え、現代的なテーマに対応した教養的科目を設置します。 ・現代産業社会の課題に対応できる「共創力」「課題解決能力」を養うために、相互交流をベースとした科目、ゼミナール、論文作成科目を段階的に設置します。 ・経営学領域の諸理論について、バランスのとれた学修ができるよう、戦略経営・マーケティング・会計学・情報システム学の4系列の専門科目群を編成します。 ・組織の運営とその課題の解決を可能とする技能を養うために、情報処理・語学関連の科目を必修とし、より上級な学修のための科目を設置します。 <p>（詳細は添付資料参照）</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表）</p> <p>https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/ba/policies.html</p>
<p>(概要)</p> <p>経営学部経営学科では、学部学科の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業後の目指すべき進路を明確に定めている者。 ・高等学校卒業レベルの言語能力と社会科科目の基礎知識を有し、それらを発展させ、能動的にテーマを設定し勉学に取り組む意欲をもっている者。 <p>（詳細は添付資料参照）</p>

<p>学部等名 法学部法学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学公式ホームページにて公表）</p> <p>立正大学学則第16条2（5）</p> <p>https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/school_regulations/index.html</p>
<p>(概要)</p> <p>法学部は、法の成り立ち、仕組み、あり方を探求することによって、深い教養とモラルとが融合した、感性豊かな法的素養を有する指導的職業人を養成することおよびそのために必要な教育研究を行うことを、人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学公式ホームページにて公表）</p> <p>https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/law/policies.html</p>

<p>(概要)</p> <p>法学部法学科の課程を修め、所定の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。 (詳細は添付資料参照)</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学公式ホームページにて公表)</p> <p>https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/law/policies.html</p>
<p>(概要)</p> <p>法学部法学科は、卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習を適切に組み合わせた授業を開講します。 (詳細は添付資料参照)</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 大学公式ホームページにて公表)</p> <p>https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/law/policies.html</p>
<p>(概要)</p> <p>法学部法学科では、学部学科の教育目標に共感し、法学科での学修に取り組んでいくために必要な能力等を身につけている者の入学を期待します。 (詳細は添付資料参照)</p>

<p>学部等名 社会福祉学部社会福祉学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法: 学則にて公表)</p> <p>https://www.ris.ac.jp/rissho_school/release_information/basic_info/1_02.html</p>
<p>(概要)</p> <p>社会福祉学部は、社会の現代的課題を分析する能力、共感する心と豊かな人間性、そして福祉課題に取り組む実践力を培い、実社会の各分野で活躍できる有為な人材を養成することを教育研究上の目的とする。</p> <p>社会福祉学科は、社会福祉の価値や倫理を理解し、幅広い総合的視点から福祉・人間・社会・文化・教育を捉え、実践を通して福祉社会の実現に寄与できる構想力のある人材を養成することを教育研究上の目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表)</p> <p>https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/socialwelfare/policies.html</p>
<p>(概要)</p> <p>社会福祉学部は、各学科の課程を修めたうえで、所定の能力・資質を身につけた者に学位を授与する。(詳細は添付資料参照)</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表)</p> <p>https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/socialwelfare/policies.html</p>
<p>(概要)</p> <p>社会福祉学部社会福祉学科は、卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講する。 (詳細は添付資料参照)</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表)</p> <p>https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/socialwelfare/policies.html</p>
<p>(概要)</p> <p>社会福祉学部社会福祉学科では、学科の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士・精神保健福祉士として将来的に社会福祉の対人援助の現場で活躍しようとする意欲をもっている者。 ・コミュニケーション能力と他者理解の能力に優れ、特別支援学校教諭免許状を取得し障害児教育に携わる意欲をもっている者。

・「福祉社会」の各種フィールドで構想力を発揮し、福祉コミュニティの形成に貢献する意欲をもっている者。
(詳細は添付資料参照)

学部等名 社会福祉学部子ども教育福祉学科
教育研究上の目的 (公表方法: 学則にて公表)
https://www.ris.ac.jp/rissho_school/release_information/basic_info/1_02.html

(概要)
社会福祉学部は、社会の現代的課題を分析する能力、共感する心と豊かな人間性、そして福祉課題に取り組む実践力を培い、実社会の各分野で活躍できる有為な人材を養成することを教育研究上の目的とする。
子ども教育福祉学科は、教育・心理・福祉の総合的視点から、人間の深い理解に根ざした、子ども教育福祉の教育と実践を通して、各分野で活躍できる人材を養成することを教育研究上の目的とする。

卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表)
https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/socialwelfare/policies.html

(概要)
社会福祉学部子ども教育福祉学科の課程を修めたいうで、所定の能力・資質を身につけた者に学位を授与する。(詳細は添付資料参照)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表)
https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/socialwelfare/policies.html

(概要)
社会福祉学部子ども教育福祉学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講する。(詳細は添付資料参照)

入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表)
https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/socialwelfare/policies.html

(概要)
社会福祉学部子ども教育福祉学科では、学科の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待する。
・人間および子どもの教育・福祉・心理をめぐる諸問題に関心を持ち、それらの問題を多角的、柔軟に思考することができる者。
・人間の尊厳、人権を尊重し、自ら積極的に課題解決に向かって努力し、論理的な思考とコミュニケーション能力を鍛え、共感を持って子ども支援に取り組む意欲をもっている者。
(詳細は添付資料参照)

学部等名 地球環境科学部環境システム学科
教育研究上の目的 (公表方法: 学則にて公表)
https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/school_regulations/index.html

(概要)
地球環境科学部の人材養成に関する目的およびその他の教育研究上の目的は、地球と地域の環境問題の解決に貢献できる有為な人材の養成である。
環境システム学科におけるこれらの目的は、環境をシステムとしてとらえ科学的根拠に基づき持続可能な社会の形成に貢献する有為な人材を養成することである。

卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表)

https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/geo/policies.html
(概要) 地球環境科学部環境システム学科の課程を修め、所定の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。(詳細は上記URLリンク先参照)
教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:大学ホームページにて公表) https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/geo/policies.html
(概要) 地球環境科学部環境システム学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。(詳細は添付資料参照)
入学者の受入れに関する方針(公表方法:大学ホームページにて公表) https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/geo/policies.html
(概要) 地球環境科学部環境システム学科では、学科の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待します。 ・地球環境を構成する4圏(地圏・気圏・水圏・生物圏)や国際的情報交換に欠かすことの出来ない外国語、自然環境問題や環境保全に関心を持つ者。(詳細は添付資料参照)

学部等名 地球環境科学部地理学科
教育研究上の目的(公表方法:学則にて公表) https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/school_regulations/index.html
(概要) 地球環境科学部の人材養成に関する目的およびその他の教育研究上の目的は、地球と地域の環境問題の解決に貢献できる有為な人材の養成である。 地理学科におけるこれらの目的は、様々な現象の複合として起こる社会および自然の諸問題を地理的・空間的視点から多面的に把握しその解決の方策を探求することができる人材を養成することである。
卒業の認定に関する方針(公表方法:大学ホームページにて公表) https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/geo/policies.html
(概要) 地球環境科学部地理学科の課程を修め、所定の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。(詳細は添付資料参照)
教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:大学ホームページにて公表) https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/geo/policies.html
(概要) 地球環境科学部地理学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。(詳細は添付資料参照)
入学者の受入れに関する方針(公表方法:大学ホームページにて公表) https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/geo/policies.html
(概要) 地球環境科学部地理学科では、学科の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待します。 ・地域と社会の諸問題や社会的課題に高い関心を持ち世界および日本における地域の

さまざまな課題に対する解決能力や、地域の発展に貢献しうる資質をもっている者。
(詳細は添付資料参照)

学部等名 心理学部臨床心理学科
教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページにて公表) https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/psychology/policies.html
(概要) 心理学部臨床心理学科は、臨床心理学の知識・技能を活かして、心理的援助を必要とする人を理解し、適切なケアを実践できる職業人・心理的援助者を養成することを、人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的とします。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表) https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/psychology/policies.html
(概要) 心理学部臨床心理学科の課程を修め、所定の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。(詳細は添付資料参照)
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表) https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/psychology/policies.html
(概要) 心理学部臨床心理学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。また、専門科目において、公認心理師となるために必要な科目を配置します。(詳細は添付資料参照)
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表) https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/psychology/policies.html
(概要) 心理学部臨床心理学科では、学科の教育目標に共感し、臨床心理学科での学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。 ・臨床心理学に対する強い知的関心と学修意欲をもっている者。 ・臨床心理学の専門性を生かして社会に貢献したいという意欲を持っている者。 ・他者と協働して学修しようとする意欲をもっている者。 ・臨床心理学の専門的技能の修得に必要なコミュニケーション能力、自己表現能力、および共感性を身につけている者。 ・臨床心理学の研究に必要となる自らの知識・技能を活用して問題を解決するための思考力、判断力を身につけている者。 ・臨床心理学の専門知識の修得に必要な基礎学力を身につけている者。(詳細は添付資料参照)

学部等名 心理学部対人・社会心理学科
教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページにて公表) https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/psychology/policies.html
(概要) 心理学部対人・社会心理学科は、対人・社会心理学の知識・技能を活かして、社会の現実的諸問題を解決し、よりよい社会の構築に貢献できる職業人を養成することを人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的とします。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表)

https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/psychology/policies.html
(概要) 心理学部対人・社会心理学科の課程を修め、所定の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。(詳細は添付資料参照)
教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:大学ホームページにて公表) https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/psychology/policies.html
(概要) 心理学部対人・社会心理学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。(詳細は添付資料参照)
入学者の受入れに関する方針(公表方法:大学ホームページにて公表) https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/psychology/policies.html
(概要) 心理学部対人・社会心理学科では、学部学科の教育目標に共感し、対人・社会心理学科での学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。 <ul style="list-style-type: none"> ・対人・社会心理学に対する強い知的関心と学修意欲をもっている者。 ・対人・社会心理学の専門性を活かして社会に貢献したいという意欲をもっている者。 ・他者と協働して学修しようとする意欲をもっている者。 ・対人・社会心理学の専門的技能の修得に必要なコミュニケーション能力、自己表現能力、および共感性を身につけている者。 ・対人・社会心理学の研究に必要な自らの知識・技能を活用して問題を解決するための思考力、判断力を身につけている者。 ・対人・社会心理学の専門的知識の修得に必要な基礎学力を身につけている者。 (詳細は添付資料参照)

学部等名 データサイエンス学部データサイエンス学科
教育研究上の目的(公表方法:学則にて公表) https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/school_regulations/index.html
(概要) データサイエンス学部は、データ分析のエキスパートとして、現代社会経済の諸問題をデータから発見し、データを用いて解決していくことに貢献できる柔軟で深い教養と高いモラルを身に着けた人材を養成することおよびそのために必要な教育研究を行うことを、人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的とする。
卒業の認定に関する方針(公表方法:大学ホームページにて公表) https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/datascience/policies.html
(概要) データサイエンス学部データサイエンス学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。 <関心・意欲・態度> <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスをビジネスに活かすことに関心を持ち、現代社会に貢献しようとする意欲がある。 ・現代社会・経済の諸問題をエビデンスに基づいて検証する実証的態度を身につけている。 <思考・判断・表現> <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスの知識と技能を用いて、様々な分野において新たな価値を生み出すことができる。

・データサイエンティストとして必要なモラルを理解し身につけたうえで、主体性を発揮することができる。

<知識・理解>

・データサイエンスに必要な基本的な数理的知識を身につけている。
・データサイエンスを応用し新たな価値を創造するために必要な現代社会・経済に関する知識を身につけている。

<技能>

・現代社会・経済で広く求められている、データサイエンスに基づく基礎的・応用的な技能を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表）

https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/datascience/policies.html

（概要）

データサイエンス学部データサイエンス学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。

・データサイエンス学部データサイエンス学科は、現代社会・経済で広く求められている、データサイエンスに基づく基礎的・応用的な技能を身につけるためのカリキュラムを設けます。

・自らの興味関心に基づき主体的な学修を続け現代社会・経済に貢献しようとする意欲を育てるため教養的科目と演習科目を設置します。

・データサイエンスに対する興味関心を持ち、その全体像を理解するとともに基本的な数理的知識を身につけるために、数学・統計学・情報科学分野の導入的科目を必修科目として設置します。

・データサイエンティストに必要なエビデンスに基づいて検証する実証的態度やモラルを身につけるため専門基礎科目群を設置します。

・現代社会・経済の諸問題に取り組むためデータの収集・加工・分析に関する知識・技能を身につけ、様々な分野において新たな価値を創造できるようデータサイエンス科目群を設置します。

・経済価値の創造を担うために必要な現代社会・経済に関する知識・技能を身につけることを目的として価値創造科目群を設置します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表）

https://www.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/datascience/policies.html

（概要）

データサイエンス学部データサイエンス学科では、学科の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待します。

高等学校等の学習履歴にかかわらず、データサイエンス技術とその技術を活用することが出来る諸分野（ビジネス・観光・社会・スポーツなど）に強い関心を持ち、現代社会・経済の諸問題の解決に意欲を持つ者。

〔学力の三要素に即した期待する能力〕

<主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

・現代社会・経済の諸問題を解決するために、失敗を恐れず果敢にチャレンジできる者。
・現代社会・経済の諸問題を解決するために、他者とのコミュニケーションを積極的に行う姿勢が身につけている者。
・世代や国籍にとらわれることなく、自ら働きかけ協働することができる者。
・社会調査士や統計検定のようなデータサイエンティストに関わる資格を取得する意欲をもっている者。

<思考力・判断力・表現力>

・現代社会・経済の諸問題について強い知的関心を持ち、論理的に考えることができる者。
・新たに得られた知識や情報をプレゼンテーションなどの方法を用いて適切に表現し、相

手に内容を正確に伝えることができる者。

<知識・技能>

- ・高等学校等においてデータサイエンス学に係る数学、国際的情報交換に欠かすことが出来ない外国語に関する能力・知識を身につけている者。
- ・データサイエンス学の修得に深く関連するコンピュータやネットワーク活用の基礎的な能力を身につけている者。

〔高等学校等で修得しておくことが望ましい能力の具体的内容〕

外国語

- ・データサイエンス学やそれに関連する分野の知識を獲得するために必要な英文法・語彙力・リーディング・リスニングの基礎的な能力、および新たに得られた知識や情報を発信するために必要となるライティング・スピーキングの基礎的な能力。

数学

- ・グラフや基礎的数式および数理的な構造を理解し、それを応用することによって論理的な思考を展開する能力。

国語

- ・データサイエンス学やそれに関連する分野の専門書や学术论文などを理解し最新の知識や技術を修得するための読解力、自身の考えを正確に相手に伝えるための表現力や文章力。

地理歴史・公民

- ・現代社会の仕組みや諸問題に関する基礎的な知識。

情報

- ・データサイエンス学の修得に深く関連するコンピュータやネットワーク活用の基礎的な能力。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学公式ホームページにて公表している。

https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/management/education_and_learning.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6人	—					6人
仏教学部	—	9人	4人	2人	1人	人	16人
文学部	—	34人	12人	6人	人	人	52人
経済学部	—	17人	8人	9人	人	人	34人
経営学部	—	17人	7人	3人	人	人	27人
法学部	—	22人	5人	2人	1人	人	30人
社会福祉学部	—	20人	11人	2人	4人	人	37人
地球環境科学部	—	18人	6人	5人	7人	人	36人
心理学部	—	18人	8人	5人	2人	人	33人
データサイエンス学部	—	13人	3人	7人	2人	1人	26人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		569人					569人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学公式ホームページにて公表している。 https://www.ris.ac.jp/rissho_school/release_information/education_activity/3_03.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
学長を委員長、FD 担当副学長を副委員長とする立正大学FD 委員会を組織して全学で実施している。 FD 委員会では、全学的な教育支援活動の企画立案に取り組むとともに、学部・学科等の組織ごとに開催される授業研修会・研究会などを支援している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
仏教学部	105人	83人	79.0%	420人	423人	100.7%	-人	1人
文学部	560人	502人	89.6%	2,240人	2,018人	90.1%	-人	5人
経済学部	400人	409人	102.3%	1,600人	1,580人	98.8%	-人	1人
経営学部	330人	324人	98.2%	1,320人	1,323人	100.2%	-人	2人
法学部	340人	340人	100.0%	1,360人	1,326人	97.5%	-人	0人
社会福祉学部	275人	227人	82.5%	1,150人	1,064人	92.5%	-人	1人
地球環境科学部	230人	158人	68.7%	950人	755人	79.5%	-人	0人
心理学部	285人	295人	103.5%	1,140人	1,148人	100.7%	-人	2人
データサイエンス学部	240人	225人	93.8%	480人	434人	90.4%	-人	0人
合計	2,765人	2,563人	92.7%	10,660人	10,071人	94.5%	-人	12人

(備考) データサイエンス学部は2021年4月設置のため、1～2年生のみが在籍。

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
仏教学部	99人 (100%)	4人 (4.0%)	71人 (71.7%)	24人 (24.2%)
文学部	539人 (100%)	14人 (2.6%)	432人 (80.1%)	93人 (17.3%)
経済学部	367人 (100%)	3人 (0.8%)	301人 (82.0%)	63人 (17.2%)
経営学部	278人 (100%)	1人 (0.4%)	236人 (84.9%)	41人 (14.7%)
法学部	300人 (100%)	0人 (0.0%)	269人 (89.7%)	31人 (10.3%)
社会福祉学部	312人 (100%)	3人 (1.0%)	277人 (88.8%)	32人 (10.3%)
地球環境科学部	200人 (100%)	2人 (1.0%)	173人 (86.5%)	25人 (12.5%)
心理学部	285人 (100%)	32人 (11.2%)	216人 (75.8%)	37人 (13.0%)
合計	2,380人 (100%)	59人 (2.5%)	1,975人 (83.0%)	346人 (14.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
立正大学大学院、警視庁、日本通運株式会社、第一生命保険株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、エスビー食品株式会社、日本製紙株式会社、大和ハウス工業株式会社				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）各授業科目における授業計画の作成にあたっては、全学的に項目を統一し、シラバス作成ガイドラインに沿って作成している。シラバス作成ガイドラインは、全学の委員会である全学教育推進センター運営委員会において毎年見直し、必要に応じた改訂を行っている。授業計画の項目は、授業の目的、到達目標、授業外学修内容、授業計画、成績評価の方法、フィードバックの内容、教科書・指定図書・参考書、教員からのお知らせ、オフィスアワーとして

いる。また、授業担当者の作成後に、第三者におけるシラバスチェックを行っている。
シラバスの作成時期は、例年、前年度の12月末に作成ガイドラインを添付した上で作成依頼を行い、1月末を提出締め切り。その後、シラバス第三者チェック、修正等を行い、3月上旬にWEBにて公開、あわせて4月のガイダンス時に学生には冊子を配付している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
成績評価については、シラバスであらかじめ示した成績評価の方法に基づき、定期試験、レポート、授業内評価、平素の取組等を総合的に勘案し評価を実施している。毎年度、教員へ配付している「授業支援ハンドブック」において、成績評価、GPAについての説明を行うとともに、学内規程で定められた成績評価の証憑資料の保管期限についても周知をしている。また、成績を学生に開示した後、学生からの成績調査確認申請期間を設けている。この制度の目的は、公式で統一された手続きによる問い合わせを可能にすることで、成績評価に対する透明性と公平性を高めることとしている。

また、全学、および各学部・学科のディプロマ・ポリシーに基づき、単位修得状況、各科目の成績、卒業論文や卒業研究の成績を踏まえ、卒業を認定している。

学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
仏教学部	宗学科	124 単位	①・無	(1 年生) 46 単位 (2~4 年生) 42 単位
	仏教学科	124 単位	①・無	(1 年生) 46 単位 (2~4 年生) 42 単位
文学部	哲学科	124 単位	①・無	48 単位
	史学科	124 単位	①・無	48 単位
	社会学科	124 単位	①・無	48 単位
	文学科	124 単位	①・無	48 単位
経済学部	経済学科	124 単位	①・無	48 単位
経営学部	経営学科	128 単位	①・無	(1・4 年生) 48 単位 (2・3 年生) 44 単位

法学部	法学科	126 単位	④・無	40 単位
社会福祉学部	社会福祉学科	124 単位	④・無	48 単位
	子ども教育福祉学科	124 単位	④・無	48 単位
地球環境科学部	環境システム学科	126 単位	④・無	48 単位
	地理学科	126 単位	④・無	48 単位
心理学部	臨床心理学科	124 単位	④・無	48 単位
	対人・社会心理学科	124 単位	④・無	48 単位
データサイエンス学部	データサイエンス学科	124 単位	④・無	(1 年生) 42 単位 (2・3 年生) 44 単位 (4 年生) 38 単位
GPA の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : 公表方法 : 大学ホームページにて公表

https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/introduction/index.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
仏教学部	宗学科 仏教学科	738,000円	288,000円	279,000円	施設設備資金・教育充実費他
文学部	哲学科 史学科 文学科	738,000円	288,000円	239,000円	施設設備資金・教育充実費他
	社会学科	738,000円	288,000円	256,000円	施設設備資金・教育充実費・ 実験実習費他
経済学部	経済学科	738,000円	288,000円	266,000円	施設設備資金・教育充実費他
経営学部	経営学科	738,000円	288,000円	287,000円	施設設備資金・教育充実費他
法学部	法学科	738,000円	288,000円	286,000円	施設設備資金・教育充実費他
社会福祉学部	社会福祉学科	738,000円	288,000円	291,000円	施設設備資金・教育充実費他
	子ども教育福祉学科	738,000円	288,000円	311,000円	施設設備資金・教育充実費他
地球環境科学部	環境システム学科	738,000円	288,000円	481,000円	施設設備資金・教育充実費・ 実験実習費他
	地理学科	738,000円	288,000円	351,000円	施設設備資金・教育充実費・ 実験実習費他
心理学部	臨床心理学科 対人・社会心理学科	738,000円	288,000円	271,000円	施設設備資金・教育充実費他
データサイエンス学部	データサイエンス学科	738,000円	288,000円	476,000円	施設設備資金・教育充実費・ 実験実習費他

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 「学生支援に関する方針」に基づき、全学教育推進センターおよびその所管部署である学事課を中心に、各学部・研究科（事務室を含む）、学生生活課、国際交流センター等の関係部署が連携し、教職員共同での支援体制を整えている。 各学部・研究科では年度当初にガイダンスを行って年次ごとに適切な学修支援を行うとともに、全学的対応として、非常勤講師を含む全教員にオフィスアワーを設け、学修相談にあっている。また円滑な高大接続を図るため、全学共通初年次導入科目「学修の基礎Ⅰ」を開設するとともに、学部学科専門領域への導入として「学修の基礎Ⅱ」を適宜開設している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組

<p>(概要)</p> <p>「学生支援に関する方針」に基づき、キャリアサポートセンターが中心となり、キャリア教育および就職支援を行っている。キャリア教育については、キャリア開発基礎講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、インターンシップ（大学推薦）を単位認定型科目として開設している。キャリア開発基礎講座では、勤労観・職業観にとどまらず、社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力や態度の育成を主な目的としている。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>「学生支援に関する方針」に基づき、学生生活課が中心となり学生の心身の健康サポートを行っている。保健室では、常時看護スタッフが健康な学生生活を送るための諸相談に応じている他、校医による健康相談も実施している。</p> <p>また、品川・熊谷両キャンパスに、学生カウンセリングルームを開設し、非常勤の心理カウンセラー11人を配置して、週6日開室して対面および電話・メールで対応している。</p> <p>障害のある学生等に対する修学支援は、「学生支援に関する方針」に加え、「立正大学における障害学生支援に関する対応指針」に基づき障害学生支援室が各学部・研究科、入試センター、学事部、管財部、キャリアサポートセンター、カウンセリングルーム、保健室等の関連する教職員と協働して行っている。具体的には、障害のある学生（障害の疑われる学生を含む）等への修学上の困難さについて、建設的対話を通して自己理解・障害理解を深めつつ、必要に応じた授業における合理的配慮、入学希望者の事前相談および入試における合理的配慮、就労移行支援等、包括的な支援が関係部署と連携して行われている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：大学ホームページにて公表</p> <p>https://www.ris.ac.jp/rissho_school/release_information/index.html</p>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	立正大学
設置者名	学校法人立正大学学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		848人	827人	884人
内 訳	第Ⅰ区分	501人	486人	
	第Ⅱ区分	212人	229人	
	第Ⅲ区分	135人	112人	
家計急変による支援対象者（年間）				23人
合計（年間）				907人
(備考) ※後半期第Ⅱ区分に給付終期12月1名を含む				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	-人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	27人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	34人	人	人
計	61人	人	人
(備考) 「修得単位数が～」と「出席率が～」の両方に該当する学生が4名存在。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	77人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	45人	人	人
計	89人	人	人

(備考)

「GPA 等～」 「出席率が～」 に重複する者は 33 名存在

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310103572
学校名	立正大学
設置者名	学校法人立正大学学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		848人	827人	884人
内 訳	第Ⅰ区分	501人	486人	
	第Ⅱ区分	212人	229人	
	第Ⅲ区分	135人	112人	
家計急変による支援対象者（年間）				23人
合計（年間）				907人
(備考) ※後半期第Ⅱ区分に給付終期12月1名を含む				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	-		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	27人		
「警告」の区分に連続して該当	34人		
計	61人		
(備考) 「修得単位数が～」と「出席率が～」の両方に該当する学生が4名存在。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	77人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	45人		
計	89人		
(備考) 「GPA等～」 「出席率が～」に重複する者は33名存在			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。